

ある時間、待つてみてください

大江 健三郎
おおえ けんざぶろう

大江 健三郎 一九三五年。

著書に『飼育』『個人的な体験』『万延元年のフットボール』などがある。

子供に取り返しのつかないことはない。※自分から取り返しのつかないことをしてはいけない、それが「原則」だ、と私は書きました。それでは、どうしても苦しく辛まるためには、どうすればいいでしょうか？

私はそれについて子供のころから考えてきたので、ひとつ答えておきます。単純ですが、有効だとも経験によって知っています。「ある時間、待つてみる力」を持て、ということです。なんであれ、もう自分は取り返しがつかないことをするほかない、と思う時、とにかく「ある時間、待つてみる力」を持って、もうダメだ、とあきらめるな、といいたいのです。

子供にとって、この「ある時間」ということが本当に大切なことです。大人になってしまえば、「ある時間」待つてみても同じだ、ということはあります。しかし、子供にとっては、絶対にそうでない。待つてみる「ある時間」のなかに、すべてがある、といつていいくらいです。二十一世紀に生きるあなた方につたえたい言葉をひとつだけ選べ、といわれたら、私はこういいます。

自分から取り返しのつかないことをしてはいけない
本書で引用した部分の少
し前に、

「それでは、子供が取り返しのつかないことをすることはないかといえ、現実にあるのです。人間にとって、それが自分の目で見るなにより苦しむこと、辛(つら)いことだ、と私は思います。子供が取り返しのつかないことをする、とはどういうことか？」
殺人と、自殺です。ほのかの人間を殺すまで暴力をふるい、自分を殺すまで暴力をふるうことです。」とある。